

自然教室（スキー）開催!

立春が過ぎたというもののまだ厳しい寒さが続いています。山の頂は真っ白で、吹雪いていたのだからと山を眺めながら通勤する毎日です。風は冷たく縮み上がりそうになる程ですが、早朝より部活動の練習に打ち込む生徒たちは寒さにも負けず、元気な声を出しています。

1年生は2月3日（水）から5日（金）の3日間、自然教室に行って来ました。3日間とも好天に恵まれ素晴らしい思い出づくりができました。1日目、2日目と御在所スキー場で6班に分かれて、スキー教室に参加しました。宿泊は四日市市少年自然の家で2年後の自分に向けた手紙やレクリエーションを行いました。



□□□ 学校アンケートへのご協力 ありがとうございます □□□

本校では、生徒の皆さんや保護者の方々からアンケートにお答えいただき、教師自身が自己を振り返るとともに、学校教育の一年間の反省や次年度への方向性を考えさせていただいております。本年度も、「学校づくりビジョン」で学校教育目標や具体的な重点目標をお知らせし、教育活動に取り組んで参りました。それぞれの結果を踏まえて改善すべき点をはっきりさせ、次年度への教育活動に生かしていこうと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成27年度の西陵中学校についてのアンケート結果から比較的评价の高かった項目は、生徒・保護者でそれぞれ次のようになりました。

- | | | |
|-----|--------------------------|-----|
| 生徒 | ①危機管理体制 | 94% |
| | ②仲間づくり | 93% |
| | ③キャリア教育の推進保護者・地域との連携 | 90% |
| 保護者 | ①充実した学校生活 | 90% |
| | ②危機管理体制 | 89% |
| | ③教育目標実現に向けた努力、保護者・地域との連携 | 85% |

（「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合の数字の上で高かった上位3項目）

一方、評価の低かった項目は、以下のようになりました。

- | | | | |
|-----|--------------------|-------------|--------------|
| 生徒 | ①生徒指導上の問題への対応(79%) | ②教育相談(82%) | ③部活動の充実(82%) |
| 保護者 | ①教育相談(68%) | ②部活動の充(68%) | |

（「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合の数字の上で低かった下位2項目）

上位3項目、下位2項目を挙げましたが、生徒については、下位2項目についても、約80%以上となっています。また、保護者については、下位2項目を除いて、約70%以上となっています。保護者について「教育相談」の項目は68%で、昨年度より3ポイント増加しています。

この結果から、生徒が学校生活全般に対して、意欲的に取り組んでいることがうかがえ、教師と生徒が良好な関係を築けていると考えられます。特に、「危機管理体制」(94%)、「仲間づくり」(93%)、「キャリア教育の推進」(90%)、「充実した学校生活」(90%)、「教育目標実現に向けた努力」(90%)、「保護者・地域との連携」の結果から、安心して学校生活を送っていると考えられます。

「わかる授業」に関しては、今年度は「基礎・基本の定着をめざした授業づくり」を研修課題とし、生徒間の話し合い活動を中心に授業改革に取り組んできた結果、85%の生徒が肯定的な評価をしています。しかし、分かりにくいと感じている生徒に対しては、一人でも減らす工夫を意識した授業を考え、日々自身を振り返り、研鑽に励まなければなりません。

適切な評価については、生徒83%・保護者73%と高い評価を得ています。しかし、22%の保護者は適切でないと考えています。教師が一つひとつの教育活動に対し、評価の課程を具体的な説明責任が果たせるようにしていかなければなりません。

「仲間づくり」に関して90%以上の生徒・保護者は友達との関係は上手くいっていると考えています。しかし、生徒の約10パーセントの生徒に関しては友達関係に不安を持っており、これからも教育相談やQ&Aの結果を検証し生徒の内面に迫る教育活動を続けていく必要があります。

「キャリア教育の推進」の項目に関しては、「ドリームマップ作り」や「職場体験」を通して高校進学だけではなく、職業選択も含めた進路指導を行い、生徒も保護者も学校の取り組み体制にある程度の満足感を得ているものと考えられます。

また、「危機管理体制」の項目では、やはり、生徒も保護者も意識や満足度は高いものの、日常の登下校の様子は、まだまだ改善の必要があります。本年度は、南自動車学校の方に事故の衝撃を意識できるような安全集会や危険個所の聞き取り、外部講師を招いてのネットモラル講座を行ったが、さらに交通安全教室、安全集会、ネット、ケータイ、スマホの望ましい使い方の啓発など、生徒の意識改革を目指したなお一層の取組みが必要となります。常に原点に戻り、全職員が危機管理マニュアルを意識し、それに準じた対応を取れるよう努めなければなりません。また、学校の組織だった対応、職員間の連携、学校と保護者との意思の疎通等を行い、報告・連絡・相談の徹底等は必要不可欠のこととして、職員全員が共通認識を持たなければなりません。

一方、生徒、保護者ともに、「教育相談」「生徒指導上の問題への対応」に関して、評価が低くなっています。今後、一層一人ひとりの生徒に対して、日常の言葉掛け、教育相談期間以外の相談活動の充実、等きめ細かな指導を行い、道徳教育を中心に生徒の規範意識を高め、予防的な生徒指導に取り組んでいかなければなりません。

学校アンケートの各項目で10%前後の保護者が「わからない」と回答しています。生徒は、学校の取組みを理解し、ある程度の満足はしているものの、保護者には十分伝わっていないと考えられます。今後とも、家庭訪問、生徒との面談等、一人ひとりに対する、きめ細やかな対応・指導を充実させ、各学年の取組みの様子を、今年度以上に、HP、学年通信等を通じて発信するとともに、生徒と保護者が家庭でコミュニケーションがとれるように仕組んでいく必要があると考えられます。また、そのような取組が、生徒の自己肯定観を育てていくものと考えます。

本校の場合、強みとしては生徒が落ち着いていて学校の指導に対しても大半が満足している点、学校の取組みに対しても好印象をもって受け入れている生徒が90%近くいる点、生徒が自分の将来に対して前向きに考えている点、人権意識が高い点、自分を大切に感じている点は大きな強みと言えます。

2月12日（金）は今年度最後の学校公開日となります。